



1 / 久喜地区の国有林が山腹崩壊 (13日: 三陸北部森林官支署久慈支署撮影)
 2 / 企業と地域が一体となり久慈高等学校周辺の土砂を撤去 (13日) 3 / 土砂により国道 281 号が通行止め (13日) 4 / 夏井川堤防の道路が崩落 (14日)
 5 / 浸水被害を受けた田屋町 (13日) 6 / 平田町長自ら水と消石灰を搬入 (16日)
 7 / ごみが山積みとなった災害ごみの仮置き場 (22日) 8 / 久慈中学校 2 年生 137 人がボランティアに参加。新長内地区で土砂の撤去に汗を流しました (16日)
 9 / 自衛隊は宇部市民センターで給水と入浴支援活動を実施 (15日)
 10 / 新中の橋地区で排水活動を行う消防団の皆さん (13日)

台風被害、再び

市内各地に甚大な被害をもたらした台風 19 号。浸水による建物被害や断水、停電、道路の通行止めなど生活に大きな影響を与えました。市内の被害状況や復旧作業・ボランティア支援の様子などをお知らせします。



記録的な大雨被害

10月12日に日本に上陸し、全国各地に甚大な被害をもたらした台風19号。市内全域が大雨に見舞われ、900棟を超える建物が、床上・床下浸水などの被害を受けました。

市では、11日17時に災害警戒本部、12日9時には災害対策本部を設置。大雨や洪水、土砂災害を警戒し、12日15時に市内全域に避難勧告を発令しました。気象庁より各種警報が発表されたことを受け、同日23時40分に避難指示を発令。翌13日2時2分には、災害発生情報を発令しました。最大で22万所の避難所を開設。937人が避難しました。

市内各地では河川からの越水や内水氾濫により、住居や車両が浸水。断水や停電のほか、多数の道路でも通行止めが発生しました。13日午後まで浸水被害が続いた田屋町の住民は「60年以上この地区に住んでいるが、ここまでの浸水は初めて」「平成28年の台風10号に続いて、今回も被災した。本当に厳しい状態です」と悲痛の表情を浮かべました。

広がる支援の輪

市の被害を聞き、各地からさまざまな支援が寄せられました。友好協定を結ぶ鯉ヶ沢町は水と消石灰を支援。平田町衛町長をはじめ町職員が、市を訪問し直接搬入しました。自衛隊も断水していた宇部町で、給水や入浴支援活動を実施。民間企業からも、多くの支援物資が届けられています。

ボランティア各地から

15日には災害ボランティアセンターを開設。全国各地からボランティアの皆さんが駆けつけ、住居の片付けや土砂の撤去などの支援活動を行いました。同センターを通じて活動した人は延べ1027人(10月24日現在)。大部分は市内の中高生が占めており、若い力が地域に希望を与えています。支援を受けた新長内地区の住民は「子どもたちから元気をもらい、頑張る力が湧いてきた」と笑みを浮かべました。久慈中学校2年生の高山七楓さんは「被害を受けた人の力になれてよかった」と力強く話しました。